

令和6年度 アンケートの結果と分析

昨年12月上旬に実施したアンケート調査へのご協力ありがとうございました。

その結果をもとに、2月21日（金）に「第3回学校運営協議会」を開催し、委員の皆様と分析・検討を行いました。アンケート結果から見た傾向や特徴は下記のとおりです。委員の皆様からいただいたご意見を踏まえ、生かしていきたいと思えます。

アンケート結果の詳細につきましても、掲載します。よろしくお願いいたします。

◎ 児童への質問で「満足できる」と認められる項目

・「学校へ行くことが楽しい」	⇒82.3%
・「学校の行事は楽しく、積極的に参加している」	⇒86.2%
・「授業は分かりやすく楽しい」	⇒82.9%
・「授業では、友達の意見や感想をよく聞くようにしている」	⇒86.8%
・「授業では、分からないことをていねいに教えてもらえる」	⇒85.6%
・「先生はわたしのよいところをみとめてくれている」	⇒80.3%
・「道徳の時間などを通して、命や仲間の大切さを学ぶことができる」	⇒82.9%

新型コロナウイルス感染症が五類へ移行となり、今年度はどの活動も特に制限なく実施することができました。学校生活において、子どもたちにとって悲しいことや苦しいこと、辛いこともきっとあるはずですが、それでも「学校へ行くことが楽しい」という回答が、昨年度より5%アップして、80%を超えているのは嬉しい結果です。その要因としては、上記にあるように学校行事や授業の充実、教職員との良好な関係などが挙げられます。全体的には欠席も少なく、子どもたちはおおむね良好な生活を送っていると感じます。

● 児童への質問で「改善を要する」と思われる項目

・「大きな声であいさつや返事ができる」	⇒69.7%
・「進んで自分の意見や感想などを発表している」	⇒53.3%
・「自分が困ったり悩んだりしたときに、相談できる先生がいる」	⇒64.5%

あいさつの大切さについては言わずもがなで、本校においても継続的に呼びかけ、取り組んでいるところです。幸い、ご来校いただいた方からは「よくあいさつができる」というお言葉をいただくことが少なくありません。しかし、子どもたちの回答や、地元、地域の声を聞くと「まだ十分ではない」という感じがします。運営協議会においても、「地域でもしっかりできているかという視点をもつことが大事である」というご指摘をいただきました。正門付近でのあいさつ運動は、今も行われていますが、気持ちのよいあいさつが定着することを目標にしていきます。

自分の意見や感想を発表することは、毎年の課題です。今年度、「わくわくタイム」という子どもたち同士がかかわり合う活動も始まりました。成果が出ることを期待しています。

相談事については、先生、保護者、友達の誰か、言える相手がいることが大切というご意見を協議会でいただきました。

今後も、地域や保護者との交流・体験活動を大切に、子どもたちを育てていきたいと考えています。

※ 分析の数値は、A「あてはまる」とB「だいたいあてはまる」を肯定的な評価ととらえ、それをもとに分析・検討を行いました。

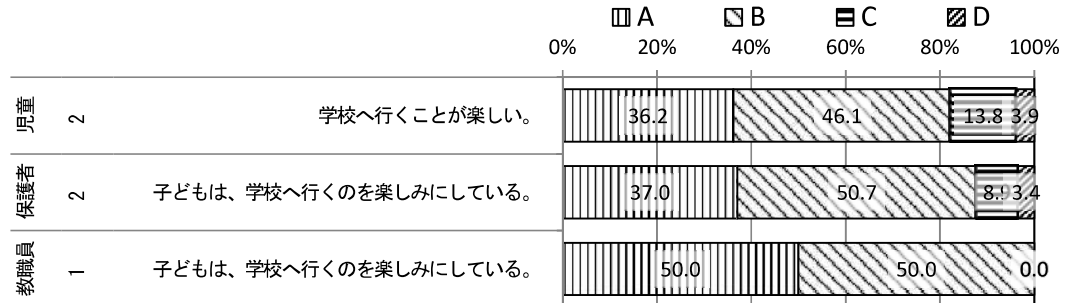
また、A「あてはまる」+B「だいたいあてはまる」が
80%を上回るものは満足できる = ◎
70%を下回るものは改善を要する = ● と考えました。

学校教育活動の評価比較

A=あてはまる(そう思う) B=だいたいあてはまる(だいたいそう思う)
 C=あまりあてはまらない(あまりそう思わない) D=あてはまらない(そう思わない)

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	2	学校へ行くことが楽しい。	36.2	46.1	13.8	3.9
保護者	2	子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	37.0	50.7	8.9	3.4
教職員	1	子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	50.0	50.0	0.0	0.0

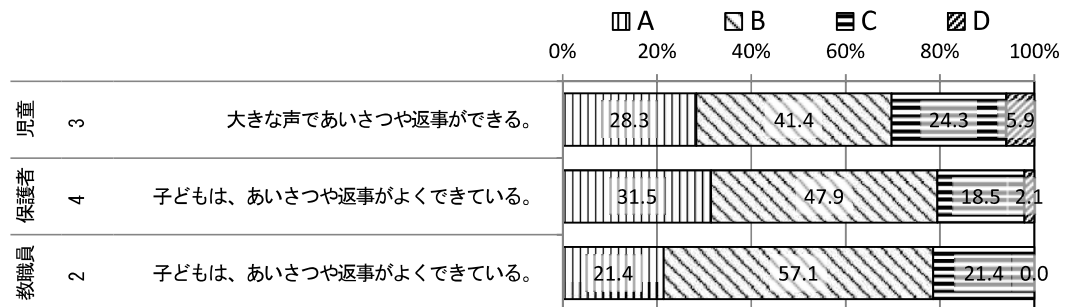
1



児童、保護者、教職員のすべてにおいて、上向きの結果が表れた。実際、「学校の楽しさ」のとらえ方には難しさがあり、児童にとって楽しいことも苦しいことも混在しているというのが正しいのかもしれないが、それでも友達と関わり合いながら活動する児童の笑顔もよく見られる。一生懸命がんばることが好きな児童をこれからも育てていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	3	大きな声であいさつや返事ができる。	28.3	41.4	24.3	5.9
保護者	4	子どもは、あいさつや返事がよくできている。	31.5	47.9	18.5	2.1
教職員	2	子どもは、あいさつや返事がよくできている。	21.4	57.1	21.4	0.0

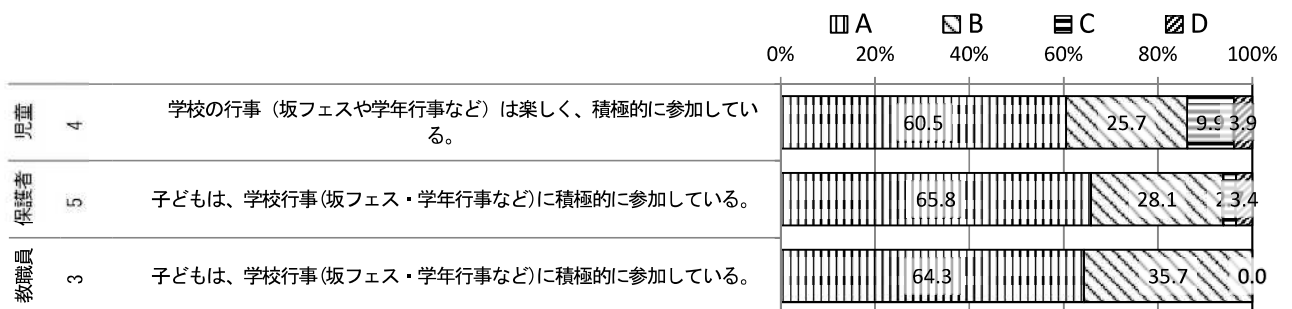
2



児童が「できている」の回答が約70%に対して、保護者と教職員は約80%であった。来校者から「よく挨拶ができる子どもたち」というお言葉をいただくことは少なくないが、児童の自己評価からは「まだまだ」「もっとできる」という意識が伺える。代表委員会主導のあいさつ運動も展開されており、ますますのレベルアップが見込まれるところである。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	4	学校の行事(坂フェスや学年行事など)は楽しく、積極的に参加している。	60.5	25.7	9.9	3.9
保護者	5	子どもは、学校行事(坂フェス・学年行事など)に積極的に参加している。	65.8	28.1	2.7	3.4
教職員	3	子どもは、学校行事(坂フェス・学年行事など)に積極的に参加している。	64.3	35.7	0.0	0.0

3

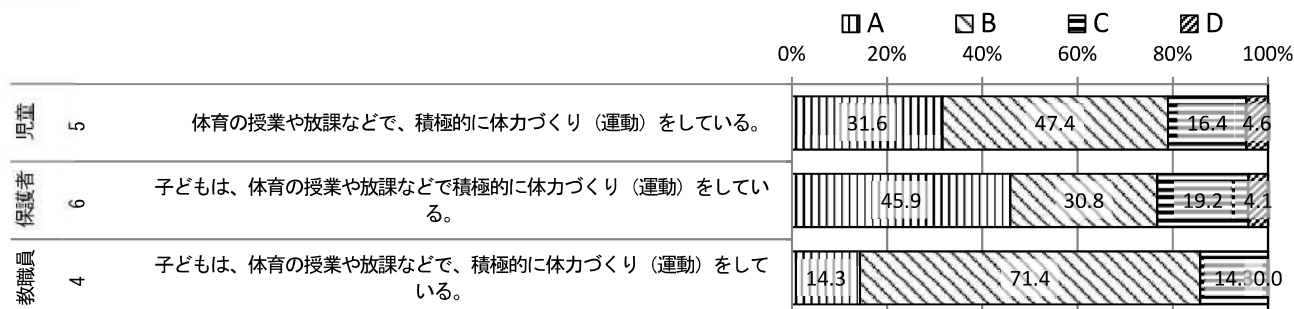


86%の児童が「楽しい・積極的に取り組んでいる」と答えた。保護者は94%で、高い評価を得ている。子どもたち一人一人が一生懸命さを表し、輝く時間になっていると感じる。「がんばることってよいことだ」を体感できるよう、これからも大切にしていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	5	体育の授業や放課などで、積極的に体力づくり(運動)をしている。	31.6	47.4	16.4	4.6
保護者	6	子どもは、体育の授業や放課などで積極的に体力づくり(運動)をしている。	45.9	30.8	19.2	4.1
教職員	4	子どもは、体育の授業や放課などで、積極的に体力づくり(運動)をしている。	14.3	71.4	14.3	0.0

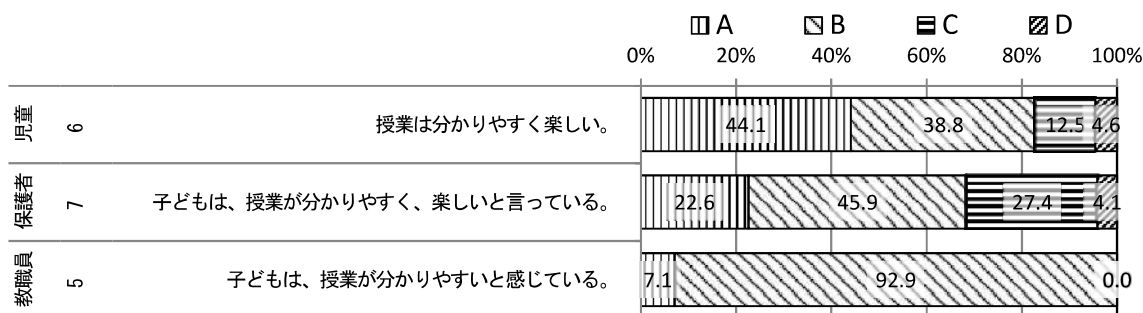
4



「積極的にしている」の回答が、児童は79%で、昨年より13%増加した。保護者は77%で微増、教職員は86%で10%の増加である。朝のきらきらタイムが定着したためか、三者とも増加という結果であった。実際、放課に外で元気よく遊ぶ児童もよく見られ、12月のマラソン大会でも自分の目標達成に向けての取組がよくできていた。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	6	授業は分かりやすく楽しい。	44.1	38.8	12.5	4.6
保護者	7	子どもは、授業が分かりやすく、楽しいと言っている。	22.6	45.9	27.4	4.1
教職員	5	子どもは、授業が分かりやすいと感じている。	7.1	92.9	0.0	0.0

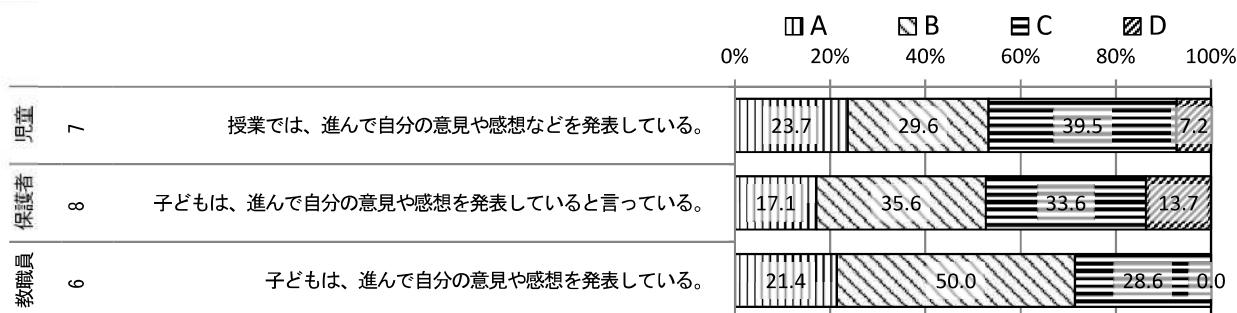
5



83%の児童が「分かりやすく楽しい」と答えている。昨年度より4%増加で、保護者は約69%で5%減少である。伝え合いに重きを置いたり、タブレットを利用したりなどの工夫をしながら、全員参加を常に目指している。今後も楽しくて分かりやすい授業づくりをしていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	7	授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している。	23.7	29.6	39.5	7.2
保護者	8	子どもは、進んで自分の意見や感想を発表していると言っている。	17.1	35.6	33.6	13.7
教職員	6	子どもは、進んで自分の意見や感想を発表している。	21.4	50.0	28.6	0.0

6

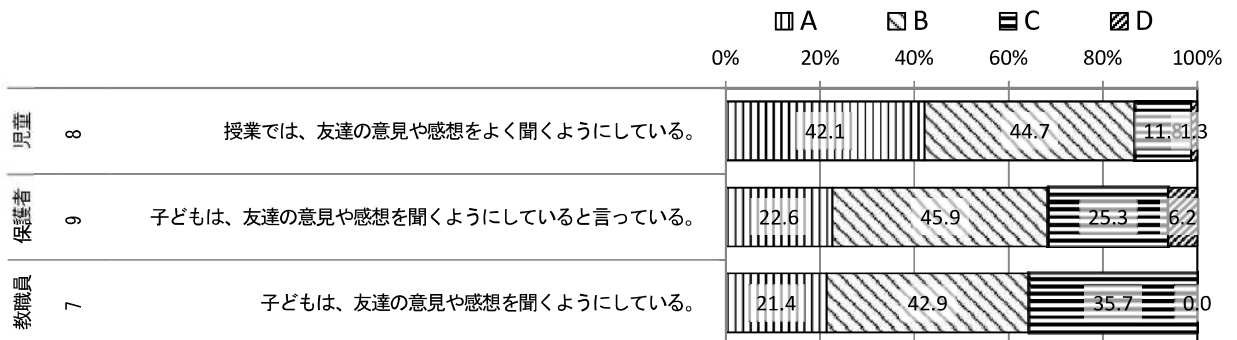


「進んで発言している」と答えた児童は53%で、昨年度並みであった。保護者も53%である。児童においては、「あてはまらない」の児童が減っているところがひとつの成果といえる。教職員は71%で、微減である。進んで発言しようとする意識が高まるよう、発問等も工夫しながら、指導を継続的に行っていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	8	授業では、友達の意見や感想をよく聞くようにしている。	42.1	44.7	11.8	1.3
保護者	9	子どもは、友達の意見や感想を聞くようにしていると言っている。	22.6	45.9	25.3	6.2
教職員	7	子どもは、友達の意見や感想を聞くようにしている。	21.4	42.9	35.7	0.0

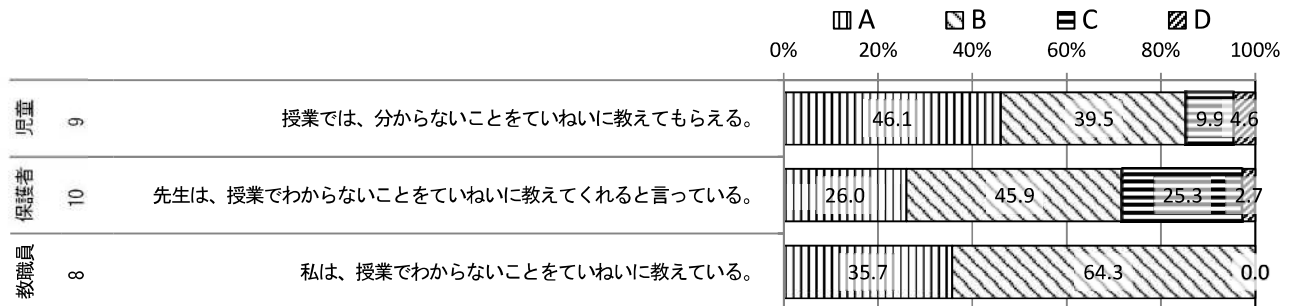
7



87%の児童が「友達の意見や感想をよく聞くようにしている」と答えた。昨年度より5%増加している。伝え合いを推奨する上で、しっかり話を聞く姿勢は徹底させたいので、嬉しい評価である。保護者や教職員の回答には若干のずれがあるが、授業のみならず、全校朝会や集会の場、朝夕の会等、様々な場面でしっかり話が聴けるよう、継続して指導をしていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	9	授業では、分からないことをていねいに教えてもらえる。	46.1	39.5	9.9	4.6
保護者	10	先生は、授業でわからないことをていねいに教えてくれると言っている。	26.0	45.9	25.3	2.7
教職員	8	私は、授業でわからないことをていねいに教えている。	35.7	64.3	0.0	0.0

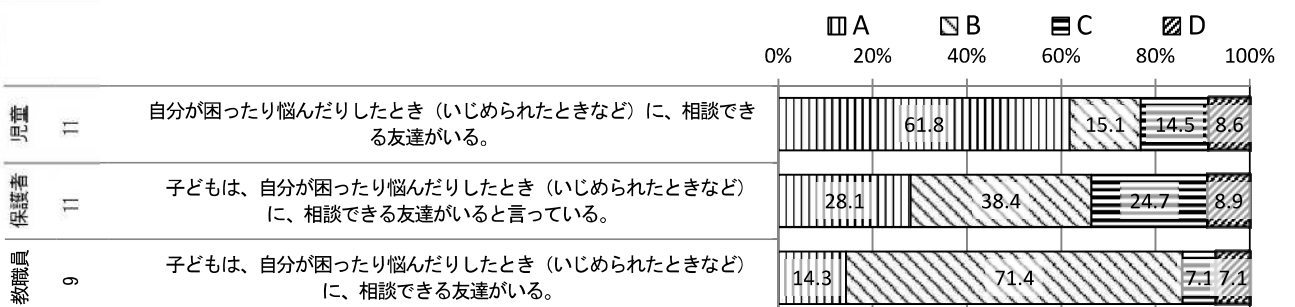
8



86%の児童が「分からないことをていねいに教えてもらえる」と答えた。昨年度より5%増加している。保護者は72%で5%減少である。教職員は全員がていねいな指導を心掛けている。今後も子どもたち一人一人に目を向け、子どもの思いに寄り添った指導をしたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	11	自分が困ったり悩んだりしたとき(いじめられたときなど)に、相談できる友達がいる。	61.8	15.1	14.5	8.6
保護者	11	子どもは、自分が困ったり悩んだりしたとき(いじめられたときなど)に、相談できる友達がいると言っている。	28.1	38.4	24.7	8.9
教職員	9	子どもは、自分が困ったり悩んだりしたとき(いじめられたときなど)に、相談できる友達がいる。	14.3	71.4	7.1	7.1

9

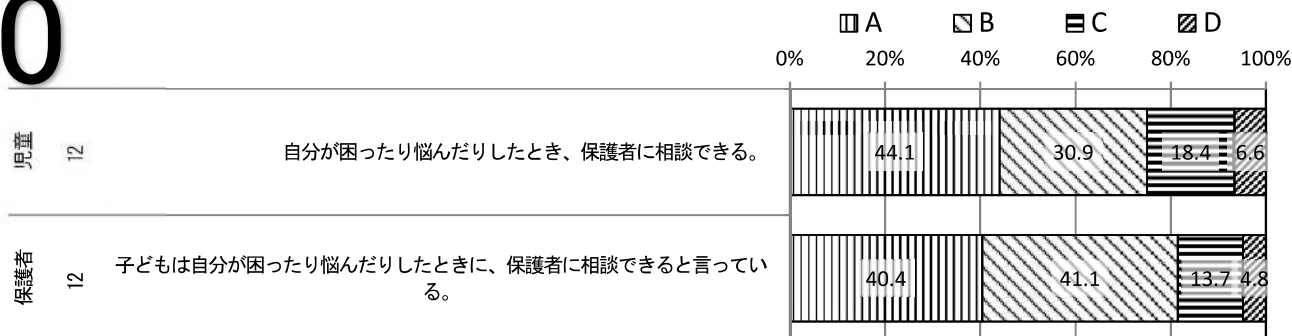


77%の児童が「相談できる友達がいる」と答えた。昨年度よりやや減少している。保護者は65%で、こちらも微減である。教職員は86%で、昨年より20%増加している。児童の残りの23%に目を向けた指導が何よりも大切である。これからも、子どもたちの良好な関係づくりに努めていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	12	自分が困ったり悩んだりしたとき、保護者に相談できる。	44.1	30.9	18.4	6.6
保護者	12	子どもは自分が困ったり悩んだりしたときに、保護者に相談できると言っている。	40.4	41.1	13.7	4.8

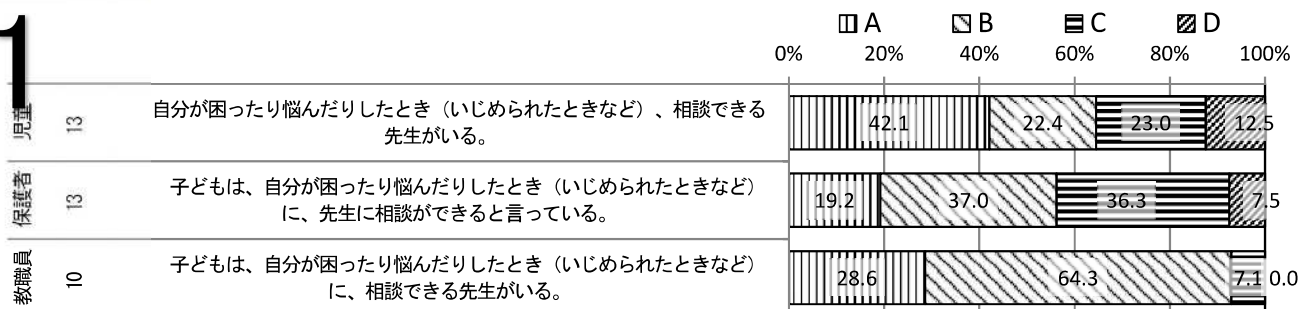
10



相談できるという回答が75%、相談してもらえるが約82%であった。「十分にあてはまる」の回答にやや差があるが、悩みを抱えた子どもにとって保護者の存在の重要性がうかがえる。親子のコミュニケーションを大切にしながら、学校でも支援をしていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	13	自分が困ったり悩んだりしたとき（いじめられたときなど）、相談できる先生がいる。	42.1	22.4	23.0	12.5
保護者	13	子どもは、自分が困ったり悩んだりしたとき（いじめられたときなど）に、先生に相談ができると言っている。	19.2	37.0	36.3	7.5
教職員	10	子どもは、自分が困ったり悩んだりしたとき（いじめられたときなど）に、相談できる先生がいる。	28.6	64.3	7.1	0.0

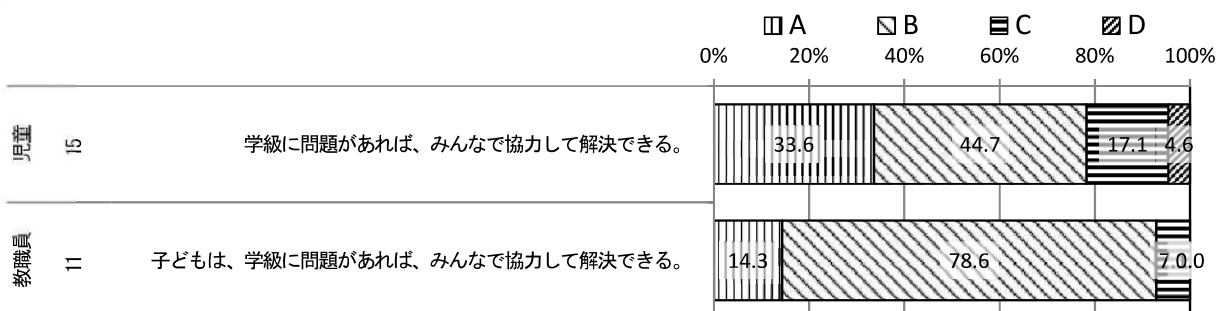
11



約65%の児童が「相談できる先生がいる」と答え、全体としては昨年度並みであった。保護者も約56%でやや減少。教職員は約93%でかなり増加である。児童の「あてはまらない」という回答約36%を真摯に受け止め、子どもたちが心を開いて、教職員に安心して相談できるような関係を築いていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	15	学級に問題があれば、みんなで協力して解決できる。	33.6	44.7	17.1	4.6
教職員	11	子どもは、学級に問題があれば、みんなで協力して解決できる。	14.3	78.6	7.1	0.0

12

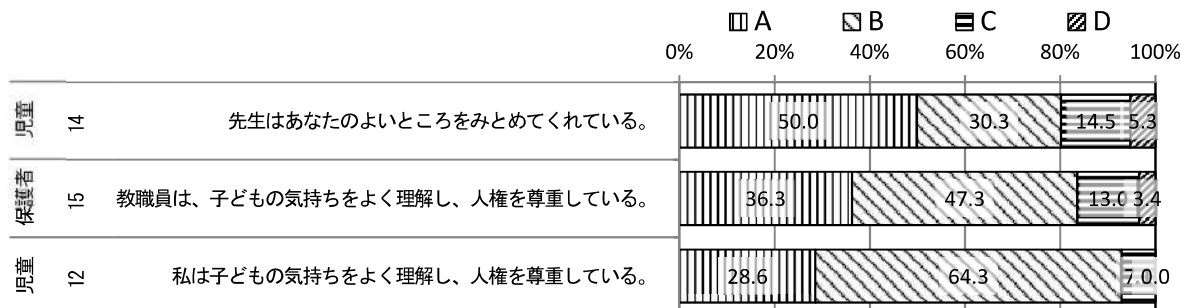


78%の児童が「みんなで協力して解決できる」と答えた。昨年度とほぼ同じ数値である。教職員は93%で、昨年度より大きく増加している。今後も子ども同士の自治意識を高められるように、諸問題を自分たちで解決できるような手立てを教職員が考えるなど、よりよい学級づくりに努めていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	14	先生はあなたのよいところをみとめてくれている。	50.0	30.3	14.5	5.3
保護者	15	教職員は、子どもの気持ちをよく理解し、人権を尊重している。	36.3	47.3	13.0	3.4
教職員	12	私は子どもの気持ちをよく理解し、人権を尊重している。	28.6	64.3	7.1	0.0

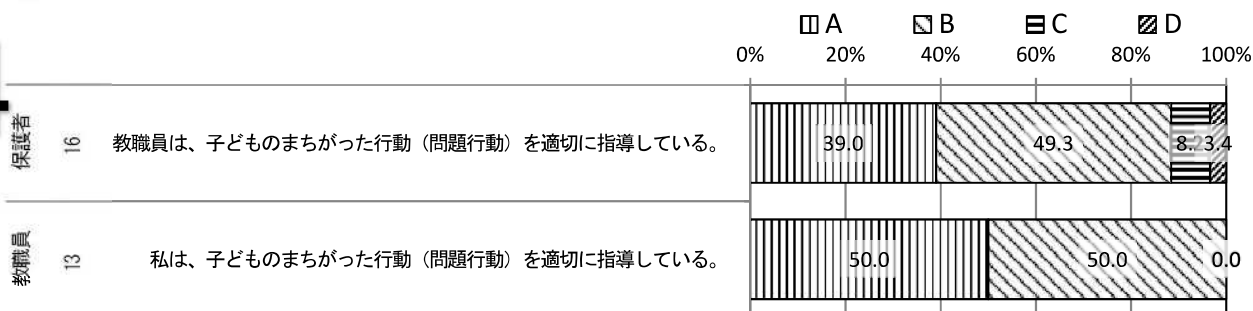
13



「先生は自分のよいところを認めてくれる」と回答した児童は80%で、保護者は84%と高い評価を得た。ありがたく感じるとともに、その期待に一層応えていかなくてはと強く感じる。子どもの自己肯定感を高めることは、学校においても極めて重要である。子どものよさに気づき、励まし、伸ばしていける教職員でありたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	16	教職員は、子どものまちがった行動(問題行動)を適切に指導している。	39.0	49.3	8.2	3.4
教職員	13	私は、子どものまちがった行動(問題行動)を適切に指導している。	50.0	50.0	0.0	0.0

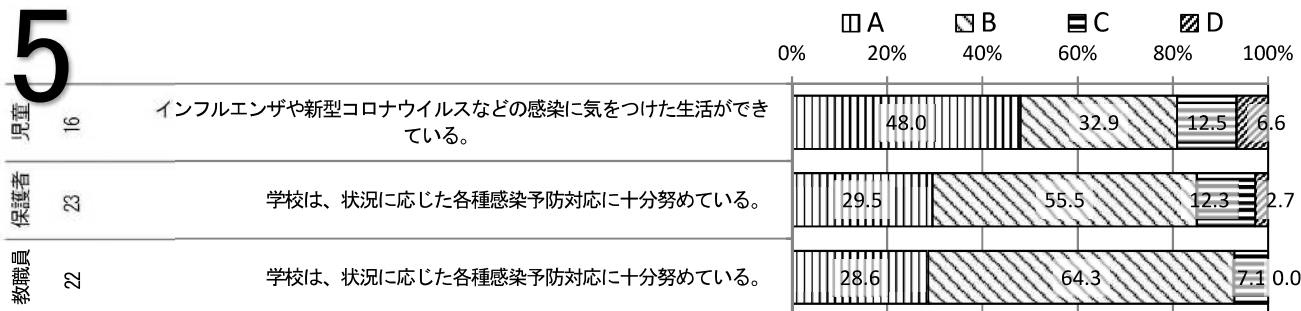
14



約88%の保護者が「適切に指導している」と答え、昨年並みの結果が出た。指導の意図がきちんと伝わるように、今後子どもたちの行動をよく把握し、適切に指導できるように努めていきたい。

児童	16	インフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染に気がつけた生活ができている。	48.0	32.9	12.5	6.6
保護者	23	学校は、状況に応じた各種感染予防対応に十分努めている。	29.5	55.5	12.3	2.7
教職員	22	学校は、状況に応じた各種感染予防対応に十分努めている。	28.6	64.3	7.1	0.0

15

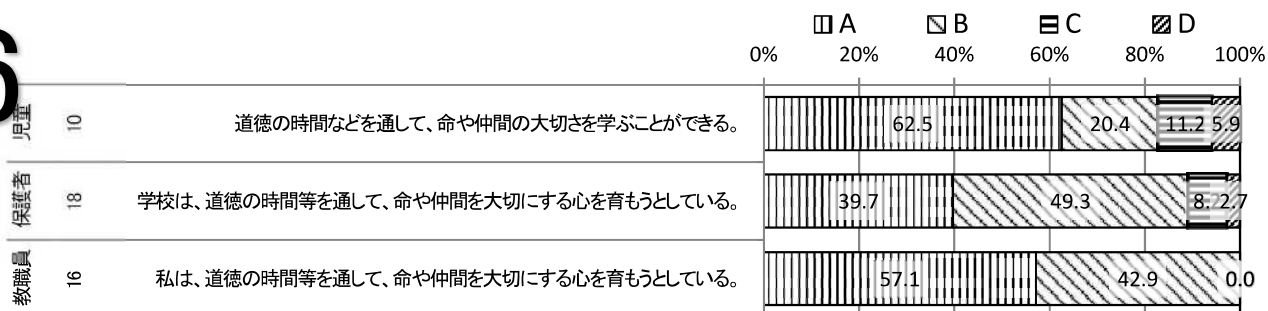


児童の約81%、保護者の85%が「感染に気がつけた生活ができている」「学校は感染予防対応に努めている」と答えた。児童の意識が昨年度より高まっている。保健委員会や教職員の呼びかけの成果と考える。今後も対策をしっかりととりながら、学校生活の保障をしていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	10	道徳の時間などを通して、命や仲間の大切さを学ぶことができる。	62.5	20.4	11.2	5.9
保護者	18	学校は、道徳の時間等を通して、命や仲間を大切にすることを育もうとしている。	39.7	49.3	8.2	2.7
教職員	16	私は、道徳の時間等を通して、命や仲間を大切にすることを育もうとしている。	57.1	42.9	0.0	0.0

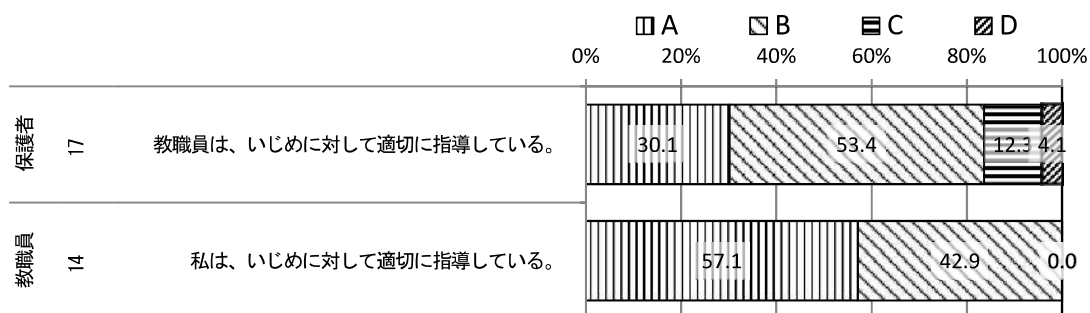
16



児童で83%、保護者の89%が「適切に指導している」と回答した。道徳の指導がより充実されるよう、教員の力量向上に努めるとともに、学校生活全般で、道徳教育に一層力を入れていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	17	教職員は、いじめに対して適切に指導している。	30.1	53.4	12.3	4.1
教職員	14	私は、いじめに対して適切に指導している。	57.1	42.9	0.0	0.0

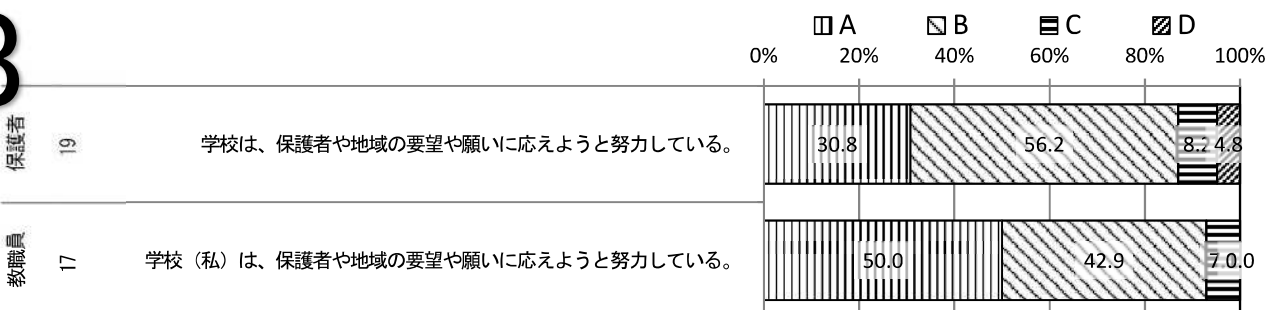
17



約84%の保護者が「適切に指導している」と答えた。昨年度より5%減少である。今後も「いじめは絶対に許さない」「いじめは決して起こさせない」を強く意識し、児童の普段の様子を把握したり、児童アンケートを活用したりして適切に指導していきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	19	学校は、保護者や地域の要望や願いに応えようと努力している。	30.8	56.2	8.2	4.8
教職員	17	学校(私)は、保護者や地域の要望や願いに応えようと努力している。	50.0	42.9	7.1	0.0

18

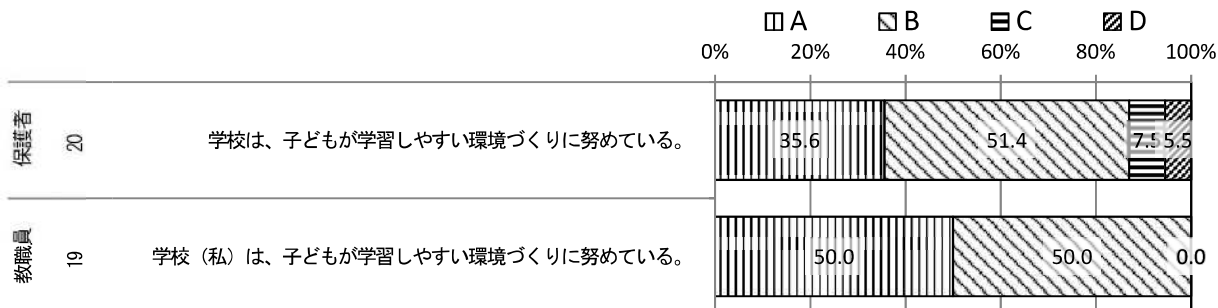


保護者は87%、教職員は約93%が「要望や願いに応えようとしている」と答えた。高い評価を頂いていることを励みにしながら、今後も保護者や地域の声を真摯に受け止め、よりよい学校づくりに努めていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	20	学校は、子どもが学習しやすい環境づくりに努めている。	35.6	51.4	7.5	5.5
教職員	19	学校(私)は、子どもが学習しやすい環境づくりに努めている。	50.0	50.0	0.0	0.0

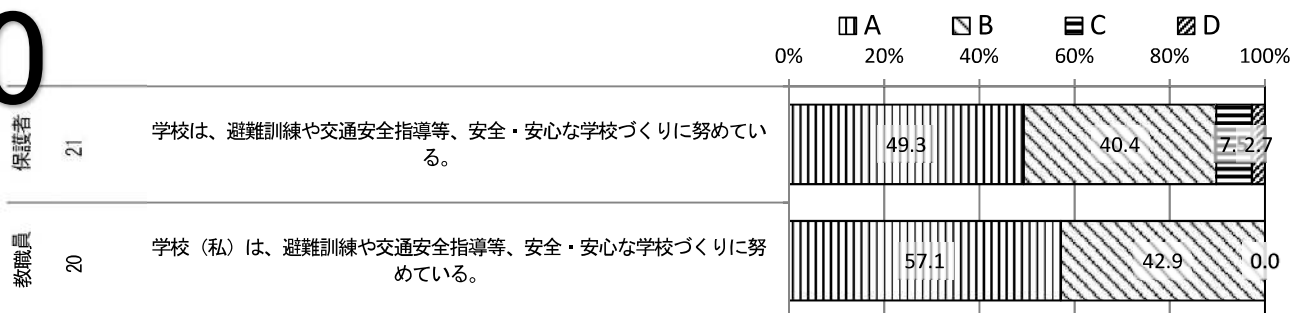
19



87%の保護者が「学習しやすい環境づくりに努めている」と答えた。これには、落ち着いた雰囲気に加えて、安全・安心面における信頼も含まれているように思う。今後も危機管理や安全教育に力を入れ、子どもたちの安全を考えた学校づくりに努めていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	21	学校は、避難訓練や交通安全指導等、安全・安心な学校づくりに努めている。	49.3	40.4	7.5	2.7
教職員	20	学校(私)は、避難訓練や交通安全指導等、安全・安心な学校づくりに努めている。	57.1	42.9	0.0	0.0

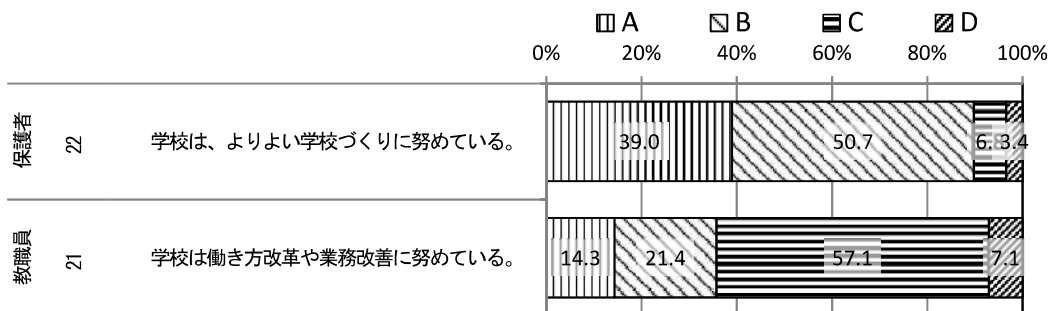
20



約90%の保護者が「安全・安心な学校づくりに努めている」と答えた。今後も危機管理や安全教育に力を入れ、子どもたちの安全を考えた学校づくりに努めていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	22	学校は、よりよい学校づくりに努めている。	39.0	50.7	6.8	3.4
教職員	21	学校は働き方改革や業務改善に努めている。	14.3	21.4	57.1	7.1

21

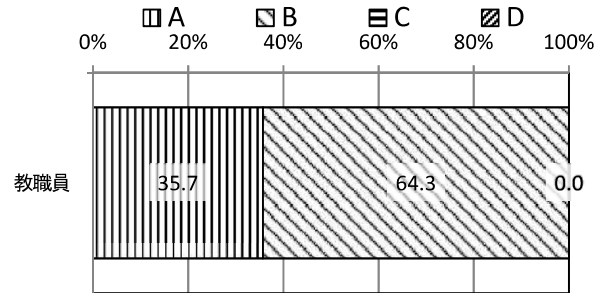


約90%の保護者が「よりよい学校づくりに努めている」と答えた。この質問の始まった5年前から続けて、高い支持をいただいている。教職員の働き方改革に関する意識は、まだまだ自身の改革や業務改善が整っていないと感じているようである。多忙化解消をすることで、教職員がいつも元気に子どもたちへの指導ができるにしていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
教職員	15	私には、自分の悩みや相談を聞いてくれる上司、同僚がいる。	35.7	64.3	0.0	0.0

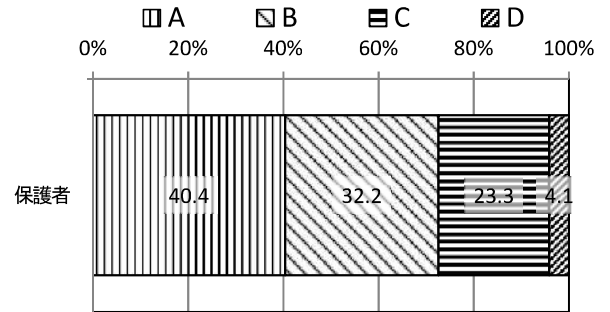
22



「悩みや相談を聞いてくれる上司、同僚がいる」の回答は100%であった。風通しのよい環境をつくること、教職員の心身の健康につながり、子どもへの適切な指導につながると考えられる。お互いが気軽に声をかけられる職場づくりに努めていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	3	子どもは、毎日学校での出来事を話す。	40.4	32.2	23.3	4.1

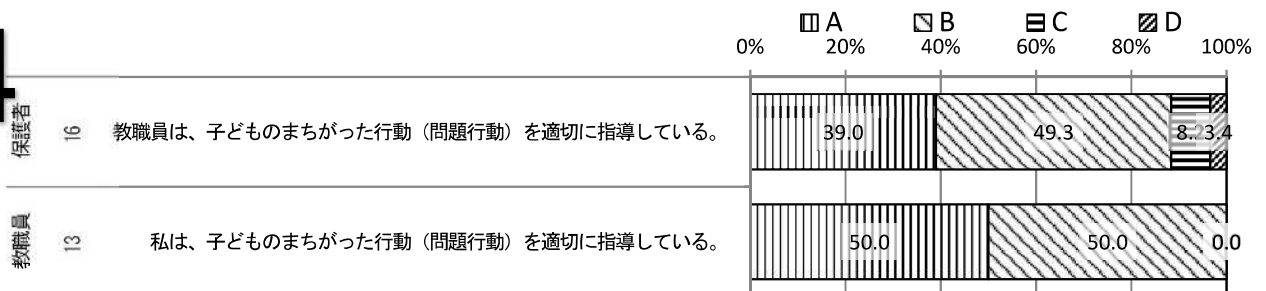
23



毎日学校での出来事を話すという回答がおよそ73%で、昨年度より5%減少した。親子のコミュニケーションを図るとともに、学校のことを知っていただくことが、健全な子どもの育成には必要と考える。子どもが話をしたくなる魅力ある学校づくりに努めていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	14	担任などの教職員とは、連絡・相談が気軽にできる。	32.9	42.5	19.9	4.8
教職員	18	学校(私)は、保護者から相談や連絡をよく受ける。	28.6	42.9	28.6	0.0

24

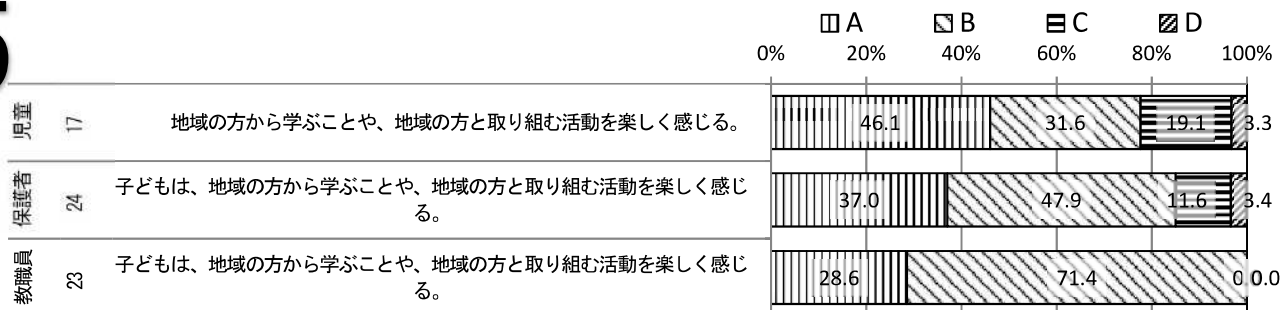


保護者の約75%が「気軽に相談できる」と回答している。しかし、何でもすぐに相談している訳ではないことが、教職員の回答からもうかがえる。子どもの健やかな成長のためには学校と家庭の連携は不可欠である。良好な関係づくりとその継続に努めていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	17	地域の方から学ぶことや、地域の方と取り組む活動を楽しく感じる。	46.1	31.6	19.1	3.3
保護者	24	子どもは、地域の方から学ぶことや、地域の方と取り組む活動を楽しく感じる。	37.0	47.9	11.6	3.4
教職員	23	子どもは、地域の方から学ぶことや、地域の方と取り組む活動を楽しく感じる。	28.6	71.4	0.0	0.0

25



今年度、新設の質問事項である。児童の約78%が「地域の方とのかかわり」を楽しんでいるようである。本校は、以前から地域交流がさかんで、多くの方が講師を務めてくださっていることをありがたく感じる。保護者、教職員の回答からも高い支持がうかがえる。